

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんせいしんじょしがくいんさつぼろせいしんじょしがくいんこうとうがっこう				②所在都道府県	北海道
26～30	①学校名	学校法人聖心女子学院 札幌聖心女子学院高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制課程普通科 (中学)	在籍者数 106名 82名
全日制普通科 (中学)	27 (29)	39 (30)	40 (23)		106 (82)		
⑥研究開発構想名	Active Dialog - 共生の実現へ -						
⑦研究開発の概要	<p>1 本校が放課後に、また、後に総合的な学習として実施してきた課題研究をさらに強化する。</p> <p>2 課題研究のテーマを「人との共生」、「自然との共生」の2つにしぼり全研究を整理統合する。</p> <p>3 海外研修の目的・成果を2つの主題別にまとめる。</p> <p>4 英語コミュニケーション能力をさらに強化する研究・研修を行う。</p> <p>5 論理的思考力と発表能力をもつグローバルリーダーの育成を目指す。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標 本校の研究開発テーマを「人との共生・自然との共生を目指し、諸課題に挑戦する。」として、課題分析能力とプレゼンテーション能力の定着を図り、グローバルリーダーの育成を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校26年度高校1年入学生（現中学3年生）の段階から論理的思考力、問題設定・解決能力の一層の向上を図っていく必要があると考えられ、これらの生徒が新しく設定した課題研究に取り組み、共生の観点から研究と実践を進め、それぞれの主張を発表し、まとめていくことによって、論理性のある問題解決能力を身に付けることが可能になると考える。</p> <p>(3) 成果の普及 ① 本校での利活用 ② 大学・企業等へのはたらきかけ ③ 小学校との協力体制づくり ④ 他校への情報提供 ⑤ 保護者の理解促進</p>					
		⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容 主題を世界的な課題である①「人との共生」、②「自然との共生」の2つにしぼり下記のような展開を考える。</p> <p>① 「人との共生」 a) 少数民族の国を設定し、身近なアイヌ民族との状況比較を基本に共生への課題を追究するため、多数民族との関係、国家政策との関係における現状と問題点を探る。 b) 難民と移民について調査の対象国を選定し、各国の受け入れ状況とその対策を共生の課題として追究するため、世界から移民や難民にまつわる争いや摩擦が消えない背景要因と現状の問題点を探る。</p> <p>② 「自然との共生」 a) 3R運動の源としての資源確保について、資源との向き合い方に問題意識を持ち、エネルギーや水資源の確保と環境問題についての問題点を探る。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 ① 実施方法 平成26年度入学生（第1学年）より学年進行で実施する。平成26年度については、総合的な学習の時間（2単位）で実施する。平成27年度以降については、各学</p>				

		<p>年2単位での実施を基本とし、「人との共生」「自然との共生」のテーマ追究のために、学校設定科目を新設した独自の教育課程を編成する。</p> <p>② 検証評価方法 すべての取組の前に、「その目的」、「つきたい力」、「望ましい姿」などの細目記載されたルーブリックを示し、生徒自身が到達目標を具体的に理解する。 ○課題解決の情報を得るため、国際機関NPOや国連などを訪問する。 ○共通の問題と、個別の問題に整理したうえでまとめ、対話と和解等、共生の視点で提言、発表の準備を行う。</p> <p>③ 課題のまとめと、その提言 取り組みを通じた結論についての発表、報告、提言を校内、或いは校外で行う。 取組後に、評価のためのアンケートを実施し、個々の生徒が自らの意識や行動の変化を自覚する場とする。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 授業外の時間及び海外研修、課題研究の研究主題「人との共生」「自然との共生」に関わる研究を通して、他者に対する奉仕や思いやりの心を養い、グローバルリーダーとしての素養を身に付けさせる。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備，教育課程外の取組内容・実施方法 (ア) 小学校への英語出前授業 (イ) 外国人留学生による母国紹介ワークショップの開催 (ウ) 外国人教員によるグローバル課題ワークショップの開催 (エ) 長期・短期留学の門戸拡大 (オ) 留学生の積極的な受け入れ (カ) 海外 Gap Year ボランティア学生の受け入れ (キ) 帰国子女の積極的な受け入れ (ク) 各種コンテストへの積極的な参加 (ケ) インターナショナルデイの開催</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ アジアスタディーツアーや大学へのスタディーツアーへの共同参加 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の姉妹大学を中心に研修活動に参加し、グローバルな視野をひろげる。 ○ 国連スタディーツアー (Little Raiza Project) 参加 <ul style="list-style-type: none"> ・国連を中心とした世界の中での我が国及び自らの果たすべき役割等を理解する。 ○ ボランティア活動 <ul style="list-style-type: none"> ・梅干弁当募金先の視察やペットボトルキャップ運動の成果を調べる。 ○ 外部機関の講演の聴講および、他者へのフィードバック

ふりがな	さっぽろせいしんじょしがくいんこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	札幌聖心女子学院高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			55人	50人	50人	50人	50人	51人
	SGH対象生徒以外:	69人	58人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 校内での呼びかけに答えて、街頭募金活動や、地域のイベント運営スタッフとして参加する人数。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			30人	30人	35人	40人	45人	36人
	SGH対象生徒以外:	18人	25人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 自ら望んで長期・短期留学や海外研修に参加する実人数(隔年でタイ体験研修がある)									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			50%	50%	55%	55%	60%	54%
	SGH対象生徒以外:	%	47.9%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 在学中に、将来そうしたいと考える生徒の人数/在籍者数予想									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			20人	20人	25人	25人	25人	23人
	SGH対象生徒以外:	12人	25人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: クラブからの参加による入賞でなく、日々の授業の結果としての英語力による参加による入賞者数。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			40%	40%	43%	43%	45%	42%
	SGH対象生徒以外:	26%	39%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 全員が卒業時には準2級または2級を取得する。準1級は、なかなか壁が高いチャレンジであるTOEICともに望ませる。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			50%	55%	60%	60%	65%	58%
	SGH対象生徒以外:	57%	45%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 25年度については2月4日現在確定者のみ。年によるが卒業生の約半数ぐらいは聖心女子大学に進学し、ほかは推薦や一般受験。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			1人	1人	2人	3人	5人	2.4人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 北海道という土地柄もある。実績として隔年で海外大学への進学者が出ていることからの想定。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			10%	10%	15%	15%	20%	14%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHの「課題研究」の結果として専攻分野を決める生徒が今以上に増えると考えられる。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			10人	20人	25人	30人	35人	7人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 国際機関やNGO、海外研修を経験し、大学でさらに海外へ行くものが増えていくと考えられる。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	10人	25人	10人	25人	10人	16人
目標設定の考え方: 国連研修、およびマングローブプロジェクトへ(隔年開催)の参加者数。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	5人	5人	10人	10人	15人	15人	20人	14人
目標設定の考え方: SOFISでの研修参加人数に、SIAによるNGO研修会参加人数。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	1校	1校	2校	3校	3校	4校	4校	3.2校
目標設定の考え方: SGHの取り組みが進むうちに、提携校が増えると予想している。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	15人	10人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
目標設定の考え方: 課題研究のための活動に参加するSHRET大学生やテーマに関する院生が増えると予測している。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
目標設定の考え方: 国連プロジェクトや「難民を助ける会」によるワークショップのリーダー格の参画者人数として想定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	12人	39人	40人	40人	40人	40人	40人	40人
目標設定の考え方: ディベートの勉強を英語のクラスできょうかすることで力が付き、また参加人数も増えると予測される。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	15人	32人	20人	35人	25人	35人	25人	28人
目標設定の考え方: 留学生、GAP YEAR生、帰国子女のより積極的な受け入れをする。隔年でタイ王立高校からグループを受け入れている。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	1回						
目標設定の考え方: 地域の小・中・高校および在校生保護者への公開授業・講演・ワークショップ等の発表会。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△	△	○	○	○	○	
目標設定の考え方: サイト内の一部が英語に翻訳されている。少しずつ翻訳する部分を増やし、最終的には全面翻訳目指したい。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	190	188	180	171	174	177	178
SGH対象生徒数			93	84	86	87	88
SGH対象外生徒数			87	87	88	90	90